



普段はA4のコピー用紙、鉛筆、消しゴムだけを持ってファミレスに行き、長居してネームの構想を練ることが多いという



当時使っていた教室前の廊下を懐かしそうに歩くうかみさん。「理系の男子クラスだったから女子との思い出はほとんどないな」と照れくさそうに語る

——作品には浜松の風景がよく出てきますが、浜松に対する思いは？
僕は浜松に住んでいて、東京には月に数回行く程度。浜松は生活しやすくてリラックスできるし、仕事もほかどりがります。実は先日アニメのスタッフさんが浜松に来たので、どこに案内しようかと悩んでいたら、「浜松って何もないんだね」って冗談交じりに言われたんです。でも、僕にとって浜松は「何もない」どころか「何でもある」場所。自然が豊かで、お店もいろいろあるし、

——毎日の生活パターンは？
朝9時に起床して、さも会社へ出勤するかのごとく近所を50分程度散歩して「エア出勤」をしてから（笑）自宅で仕事を始めます。ネーム（コマ割りや構図、セリフなどを大まかに表すこと）の時期には大体午後3時から6時ごろまでファミレスやカフェに長居して構想を練ります。帰宅後は30分間ランニング。意外と規則正しいんですよ。それに、最近体にガタがきているので運動とストレッチはやらないと。そういう面は真面目なんです。

時期があるんですよ。朝までゲームをやって昼まで寝るみたいな生活で（笑）。だから、主人公を当時の自分みたいな女の子にしたら意外性があって面白いんじゃないかと思っただけです。

不便なことは何もないですね。大好きなさわやかな「げんこつハンバーグ」もあって最高です（笑）。

——今後の目標を教えてください。
最初は30歳までに作品をアニメ化するという目標を掲げていて、実際にそれがなかったので、次は新作に取り掛かることかな。とにかく、自分が勝負できるジャンルの中で一番面白いものを描きたいという思いは常にあります。

——今の高校生たちへメッセージを。
「好きなこと」を見つめるのも大事だけど、僕はどちらかというと、今のうちに「嫌いなこと」を見つけてほしいと思います。いろいろ体験してみた中で、「自分がやりたくないと思ったことはやらないぞ」という気持ちで仕事を選べば、結果的に長く続けられる職業に就けるんじゃないかな。



うかみ
年齢非公開。浜松市西区出身。浜松湖南高校を卒業後、近畿大学情報学部に進学。卒業後は漫画家を志し、その半年後に短編漫画「こまのま」が月刊コミック『電撃大王』の新人賞で佳作を受賞。続いて「まっしる守護霊」が入選し、4コマ漫画「青春おうか部」を同誌に連載開始。その後『ガヴリールドロップアウト』の連載が人気を得て、念願のアニメ化。以来、若い世代の男性を中心にファンが広がっている。2017年には浜松市の「やらまいか大使」に任命された。



ガヴリールドロップアウト
2013年12月発売の「コミック電撃だいおうじVol.4」から連載を開始し、アニメ化された大人気シリーズ。天使学校を首席で卒業した天使ガヴリールは、修業のため下った人間界でネットゲームにはまり、自堕落な生活を送る堕天使になってしまう。ガヴリールを中心にハラハラ、ドキドキ、大爆笑の学園ドラマが繰り広げられる。浜松市を舞台のモデルにしているため、「聖地巡礼」に浜松を訪れるファンも多い。



漫画家として認めてもらえるようになったのは作品がアニメ化されたからだし、まだまだ先行き不安ですが、この仕事を選んでよかった。後悔は一切ないですね。

——普段はどんなふうに漫画を描いているんですか。
まず、紙に下書きを描いて、それをスキャンしてパソコンに取り込み、実際のペン入れはすべてパソコン上で行います。僕の作品を掲載している雑誌の漫画家はほとんど皆さんパソコンを使って作画していますね。

——キャラクターには誰かモデルがいるんですか。
いえ、実在の人物をモデルにしたことは一度もないです。自分が「かわいいな」と思えるように手を加えていく感じ。それだけにキャラクター一人一人に対する思い入れはものすごく強いんです。自分の子どものような感覚かな。

——では、「ガヴリールドロップアウト」の主人公、ガヴリールのキャラはどうやって生み出したんですか。
実は僕、大学時代に下宿に引きこもってネットゲームばかりやっていた

自分が勝負できるジャンルの中で一番面白いものを描きたい。